

第2章 まちづくりの目標

2-1 まちづくりの理念と目標

(1) まちづくりの理念

広陵町は、これまで人口の増加、産業の発展などを背景に、都市基盤の整備を進めてきましたが、今後、全国レベルでの人口減少、少子高齢社会への移行が予想されるなかで、広陵町においても活力の減退が危惧されています。

将来にわたり、広陵町が活力ある持続的な成長を可能にしていくために、地球環境との共生を図りつつ、安全性、快適性に優れた豊かな住民生活の実現化を図るなど、町の活力の源となる住民の生活の質の向上を図っていくことが重要と考えられます。

そのため、今後の広陵町のまちづくりの基本となる考え方を以下のように設定しました。

- 安全性・快適性・利便性に優れた都市機能の向上
- 総合的な環境対策の推進
- 住み続けたいくなる居住環境の形成

※前都市計画マスタープラン策定以降、この考え方に沿ってこれまでまちづくりを進め一定の成長を遂げてきましたが、さらなる成長を目指し、今後も引き続きこの考え方を踏襲したまちづくりを推進します。

(2) まちづくりの目標

まちづくりの理念をもとに、今後の広陵町のまちづくりにおいて目指すべき目標を掲げます。

●『成長都市』から『成熟都市』への礎づくり

広陵町においては、現在まで人口の増加や商業(商品販売額)などの伸びが著しく拡大し続けてきましたが、少子高齢社会を迎えるとともに成長が鈍化し、住民生活も成熟化に向かうと考えられ、現在は成長都市から成熟都市への転換期にあるといえます。

そのため、今後は町の量的な成長だけでなく、成熟、質的なグレードアップに向けたまちづくりが必要となり、その基礎づくりとして、安全性・利便性・快適性などの機能向上を図るためのまちづくりを実施します。

●住民生活をより豊かにする『環境都市』づくり

広陵町においては、馬見丘陵など公園・緑地の整備や自然環境の保全などを実施してきました。

今後は、これまでの取り組みに加え、省資源・省エネルギー、気候緩和、廃棄物処理・リサイクルなど、さらに総合的な環境に対する取り組みが必要となっています。都市計画・まちづくりにおいても、広域的な地域環境・地球環境を保全し、環境との共生を基本として豊かな住民生活の実現化を図ります。

●住民が安全・快適に住み続けるための『生活都市』づくり

近年の広陵町の発展は、優良な住宅地供給を背景に多くのファミリー世帯の転入者により支えられてきました。一方で、従来の住民が世帯分離などに伴い町外へ転出し、コミュニティ等の面において問題の生じている地域もみられるようになっていきます。

将来に向けて持続的な成長を可能にするためには、人口の維持、定住・居住継続の促進が基本かつ、大きなテーマになります。そのため、子どもから高齢者のすべての世代にとっての安全・快適な生活環境を構築し、住民が住み続けたいと思う都市計画・まちづくりに取り組みます。

2-2 将来都市構造

まちづくりの目標を実現するため、現在の都市構造や地域の特性をふまえ、広陵町の将来都市構造を設定します。

将来のまちづくりを進める観点から、都市活動の拠点やそれらを支える軸の形成、その他土地利用の考え方等を設定し、持続的な発展が可能となる都市の形成を目指します。

(1) 都市活動の拠点の形成

機能及び町域のバランスを考慮して、5つの拠点を設定します。

① 役場周辺拠点

広陵町の中心、業務・サービス拠点として、公益施設(教育、医療、官公庁施設等)や福祉施設、業務施設の整備・機能充実を図るとともに、町内各地からのアクセス性の向上を図るため、駐車場等の交通施設の整備や交通機関の確保など交通機能の強化に努めます。また、適切な市街化や施設立地の誘導を図るとともに、歩行者空間の整備、公園・広場等を確保し、広陵町の顔となる拠点として、都市機能の充実に努めます。

② 真美ヶ丘拠点

真美ヶ丘ニュータウンの生活・文化拠点として、市民利用施設や文化施設などの公益施設や、商業施設の更なる集積・機能向上に努めます。

③ 箸尾駅周辺拠点

広陵町の北部に位置し、箸尾駅の利用による人の流れ(交通動線)が集中する交通・商業拠点として、駅前広場・幹線道路の基盤整備や、利便性を活かした商業+中低層住宅地として計画的な市街化に努めます。

④ 中和幹線拠点

中和幹線と大和高田・斑鳩線の交差点付近の区域は、道路交通網の拠点、広陵町への南及び東からの玄関口として、本町の地域特性を活かしたサービス施設・商業施設の立地誘導等による機能向上に努めます。

⑤ 環境・健康拠点

広陵町東部の葛城川付近については、クリーンセンター広陵を核として、環境・リサイクル関連及び健康・スポーツ関連の施設の整備を進め、広陵町の新旧住民が交流できる拠点としての機能向上に努めます。

(2) 都市活動を支える軸の形成

町域を貫くとともに、拠点間・市街化区域を結ぶ「都市軸」、緑地や河川など、広陵町の代表的な自然資源が連なる「自然環境軸」をそれぞれ設定します。

①都市軸

[大和高田・斑鳩線]

町域を南北に貫き、中和幹線拠点、役場周辺拠点と箸尾駅拠点をつなぐ中心軸として、歩行者空間の確保や良質な街路景観の形成を図るとともに、商業・サービスを中心とした沿道の計画的な土地利用・施設立地の誘導を図り、にぎわいの連続性を創出します。

[桜井・田原本・王寺線]

王寺町や桜井市方面を結ぶ広域幹線軸としての特性を活かした商業・産業施設等の立地誘導を図るとともに、馬見丘陵公園や市街地などといった土地利用の特性に応じた沿道景観を形成します。

[柳板・大谷線]

役場周辺拠点と真美ヶ丘拠点をつなぐ軸として、斜面緑地や古くからの市街地、ニュータウンという変化に富んだ地域特性を活かし、個性豊かな沿道景観の創出を図ります。

[中和幹線]

大阪府下や桜井市方面を結ぶ広域幹線軸として、緊急時における輸送機能を維持するとともに、周辺環境と一体となった良好な沿道景観を形成します。

②自然環境軸

[葛城川]

葛城川・土庫川の周辺を河川・環境軸として、水質の浄化、親水公園の整備、周辺の緑地等の保全を図ります。

(3) 土地利用の考え方

主に下記の8種類の土地利用に区分し、各地区の将来像は以下のとおりとします。

[商業・サービス施設立地地区]

町民の利便性向上に供する沿道型の物販・飲食店舗等や、役場・福祉施設などの住民サービス施設等が集積する地区

[地域産業立地地区]

活力ある産業施設と良好な住環境の中低層住宅が調和して立地する地区

[計画開発住宅地区]

生活利便施設や文化施設を備えた良質な低層住宅地

[一般住宅地区]

防災性・防犯性・利便性を兼ね備えた、工場や店舗も適切に調和する中低層住宅地

[集落住宅地区]

田園風景と調和するまちなみを有するとともに、生活基盤施設の整った低層住宅地

[農地保全地区]

優良農地を保全するとともに、農地としての利用に限定して、必要に応じて土地の有効利用や活用を検討する地区

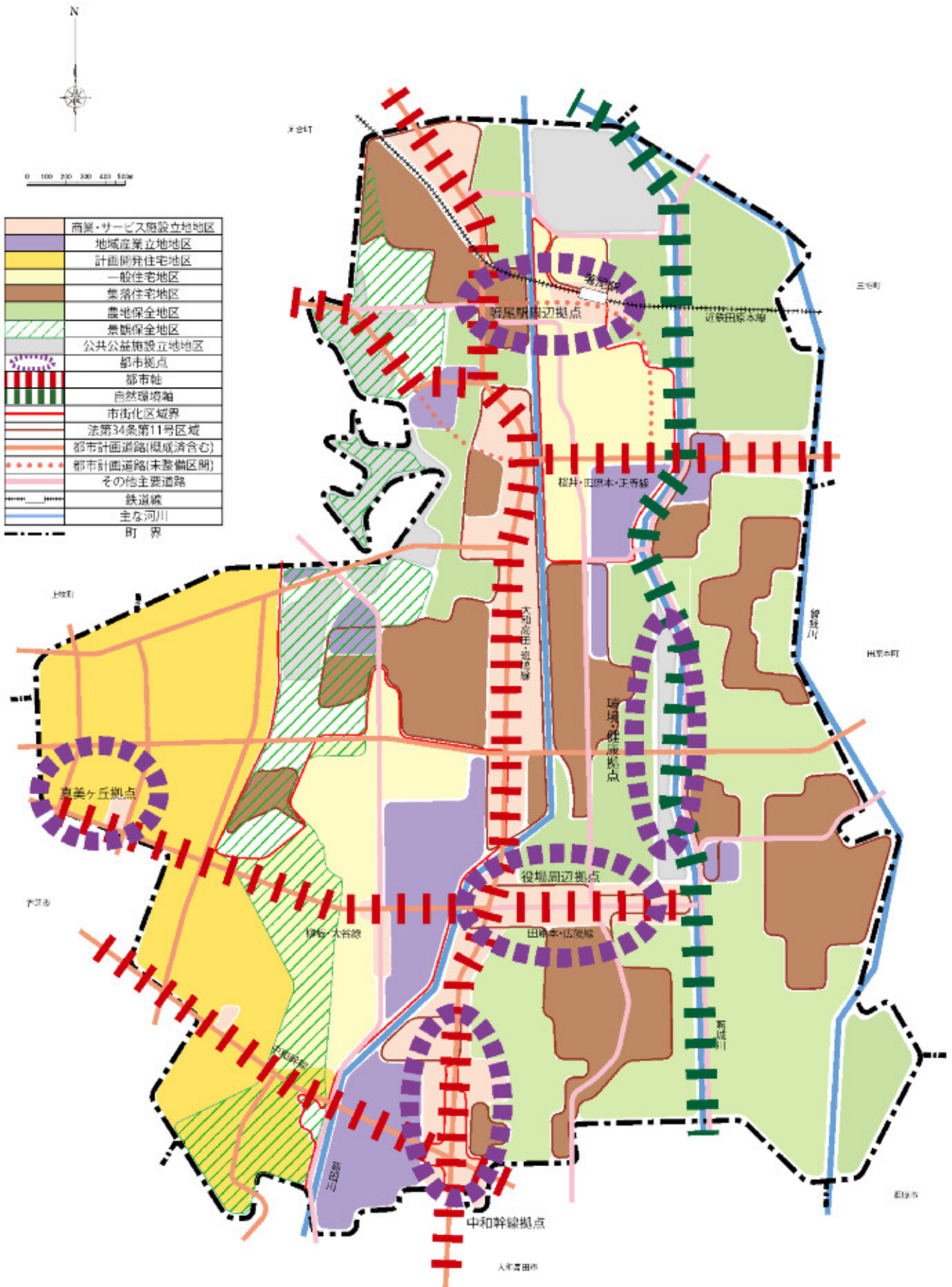
[景観保全地区]

良質な自然環境・歴史環境が、住民が利用できる形態で保全されている地区

[公共公益施設立地地区]

緑化等を充実させながら、供給処理施設、公益施設、町民利用施設等が集積する地区

図. 広陵町の将来都市構造



2-3 目標人口

第4次広陵町総合計画では、目標年度である平成33年度の本町の総人口を統計学的に算定し34,397人と予測していますが、町が活気づき人口増につながる多面的な施策を積極的に盛り込み、将来的には40,000人を目指したまちづくりを推進していくこととしています。

そのため、都市計画マスタープランにおいても、これをもとに40,000人を目標人口として設定します。



広陵町役場